

# 食行動に関する文化心理学的研究(2)

菜食主義者の食行動と食物に対する態度

○古満伊里<sup>1</sup>・和田有史<sup>2</sup>・一言英文<sup>3</sup>・川端一光<sup>4</sup>・今田純雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>広島修道大学健康科学部・<sup>2</sup>立命館大学食マネジメント学部・<sup>3</sup>福岡大学人文学部・<sup>4</sup>明治学院大学心理学部)

キーワード: 食行動, 菜食主義, 性差

## Cultural Psychological Study on Eating Behavior (2)

Eating Behavior and Attitude of Japanese Vegetarians toward Foods

Isato FURUMITSU<sup>1</sup>, Yuji WADA<sup>2</sup>, Hidefumi HITOKOTO<sup>3</sup>, Ikko KAWAHASHI<sup>4</sup> and Sumio IMADA<sup>1</sup>,

(<sup>1</sup>Hiroshima Shudo Univ., <sup>2</sup>Ritsumeikan Univ., <sup>3</sup>Fukuoka Univ., <sup>4</sup>Meiji Gakuin Univ.)

Key words: eating behavior · vegetarianism · gender difference

### 【目的】

近年、ダイバーシティ(多様性)ということばをよく耳にする。これは日本の食文化についても同様であり、さまざまな嗜好を満たすための工夫が必要となる。菜食主義者の存在もその一因である。しかしながら彼らの食行動や食物に対する態度についてはあまり知られていない。本研究では、食物が自らの人生にもたらす意義を測定するために開発された Meaning of Food in Life Questionnaire (MFLQ; Arbit et al., 2017) の日本語版を作成・実施することで、菜食主義者と非菜食主義者の食物に対する態度を性差も含めて検討した。

### 【方法】

**調査対象者:** 菜食主義者 106名(平均年齢40.26歳, 男子52名, 女子54名), 非菜食主義者 148名(平均年齢42.48歳, 男子67名, 女子81名)の計254名であった。ここでの菜食主義者の定義は「普通の食生活で肉食をしない者」である。

**質問項目:** MFLQ日本語版(7件法)に若干の食行動に関する質問項目を付加して使用した。なおMFLQの訳出に当たっては、翻訳専門会社に逆翻訳を依頼し、翻訳文がオリジナルの質問文とほぼ同等であることを確認した。

**手続き:** インターネットを介した調査を専門とする調査会社(Cross Marketing)に委託し調査した。調査時期は2018年5月第1週であった。調査会社は、登録者に調査参加を呼びかけるメールを送信した(総数63,147人)。菜食主義者、非菜食主義者男女各50名(計200名)を目標値とし、参加者数がそれぞれの目標値に達するまで調査参加呼びかけメールを送信した。菜食主義者の目標値を確保するまでにスクリーニング調査画面に到達した参加者総数は1,222名であった。

### 【結果と考察】

MFLQ 22項目に対する全参加者254名の評価得点によって探索的因子分析(プロマックス回転)を実施した。その結果4因子が抽出され(Table 1), 第1因子を「道徳性」、第2因子を「スピリチャリティ」、第3因子を「健康」、第4因子を「社会性」と命名した。なおオリジナルのMFLQは、日本語版における「スピリチャリティ」因子が「神聖性」と「審美性」に分離する5因子構造となっている。この点を除けば、日本語版の各因子に含まれる質問項目は、すべてオリジナルのMFLQの各因子に含まれる項目と一致した。

抽出された4因子のそれぞれについて、各参加者の平均評価得点を求め、嗜好(菜食主義者・非菜食主義者)×性(男性・女性)の2要因分散分析を実施した。その結果、「スピリチャリティ」因子では性の主効果(女性>男性)、「健康」因子では嗜好の主効果(非菜食主義者>菜食主義者)及び性の主効果(女性>男性)、「社会性」因子では嗜好の主効果(非菜食主義者>菜食主義者)及び性の主効果(女性>男性)がそれぞれ有意であった。いずれの因子においても嗜好×性の交互作用は認められなかった(Figure 1)。これらの結果は、女性は

Table 1 MFLQ日本語版の因子構造

項目	F1	F2	F3	F4	共通性	平均値
2 私の食物選択(何を食べて何を食べないか)は、この世界に影響を与える重要な手段となります	.88	.12	.01	-.06	0.80	3.4
1 私は、私の食物選択(何を食べて何を食べないか)が、この世界にどのような影響を与えるかというのを気にかけています	.86	.10	.01	-.05	0.76	3.3
4 私は、この世界のことを気遣いながら食べます	.79	.08	-.04	.13	0.66	3.3
3 食物を口にする時、私は、その食物の由来について考えます	.77	.06	.03	.10	0.60	3.4
5 私の食物選択は、私と自然との結びつきを反映しています	.73	.02	.14	.13	0.57	3.5
13 私の食物選択(何を食べて何を食べないか)は、私が聖なるものにつながるルートの一つです	.25	.86	-.12	-.09	0.83	3.3
15 良い食事を準備することは、芸術作品を作ることに似ています	-.04	.83	.16	.04	0.72	3.6
16 良い食事は芸術作品のようなものです	-.07	.76	.21	.08	0.64	3.6
12 精神世界の観点からみて、ある種の食物は他の食物よりもすぐれている	.17	.75	-.03	.09	0.60	3.4
14 ある種の食物は心(精神)を汚します	.31	.70	-.03	-.10	0.59	3.3
17 良い食事をとることは、すばらしい音楽を聞きに行ったり、すばらしい小説を読んだときに感じる美的体験に似ています	-.05	.57	.34	.12	0.46	3.8
11 私が食べているものは、私の精神信念を反映しています	.18	.46	-.05	.39	0.40	3.6
18 たとえ好みではない料理であっても、その美しさを評価することが私にはできます	.19	.39	.36	.07	0.32	3.6
21 身体に栄養を与えることは意味ある行為であると感じます	-.07	-.12	.88	.13	0.82	4.2
22 私は、自らの身体を気遣うような食べ方をします	.22	-.06	.82	-.04	0.72	4.0
20 私の身体にとって良いと知っている食物を食べることは、私を心地よくしてくれます	-.05	.19	.81	.02	0.69	4.0
19 私の食べるものが健康に好ましいということを知ることによって私は満足します	.05	.12	.77	-.01	0.61	4.0
7 食事をとるとき、私は、一緒に食事をしている人たちのつながりを感じます	.08	-.06	.02	.87	0.76	4.0
8 食物は、私と文化的伝統とを結びつけてくれるものです	.04	.12	.15	.68	0.50	3.9
9 同じ食物を誰かと分ちあつて食べることで、私はその人たちとより親しくなった気持ちになります	.04	.09	.17	.67	0.49	4.0
10 他者のために食物を準備することは、その人たちへの私の気遣いを示す主たる方法です	-.01	.13	.31	.57	0.44	4.0
6 私と他者との関係に、食物は深くかかわっています	.46	-.11	.10	.53	0.51	3.7

概して食物に対する関心が高く、菜食主義者は非菜食主義者よりも健康志向、社会性がともに低いことを示している。

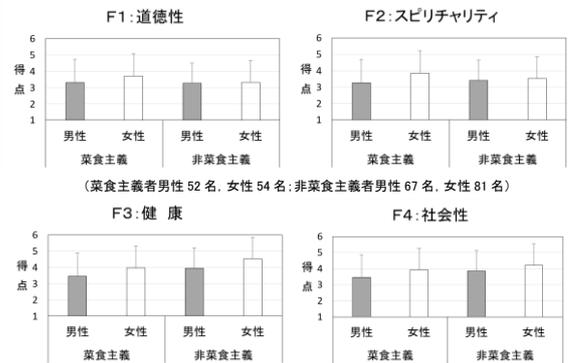


Figure 1 各因子における評価得点平均値

### 文献

Arbit, N., Ruby, M., & Rozin, P. (2017). Development and validation of the meaning of food in life questionnaire (MFLQ): Evidence for a new construct to explain eating behavior. *Food Quality and Preference*, *59*, 35-45.

謝辞: 本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金(16KTT0097)による研究成果の一部である。